

第3学年 社会科学学習指導案

日 時 平成19年10月12日(金)公開授業1
生 徒 北上市立上野中学校 3年C組
男子18名 女子16名 計34名
指導者 教諭 村木 忍

1 単元名

暮らしを支える経済

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、身近な消費活動を通して経済の意義をとらえることから始まっている。普段何気なく行われている消費活動を振り返りながら経済の基礎的・基本的な部分にせまっておき、体験を通して経済を知る学習の足がかりとなっている。

しかし生徒は、消費者としての意識はあっても生産に関わる体験が少ないために、経済活動を多面的にとらえることは難しいと考えられる。そこで、価格の動きから売り手と買い手が会おう市場に着目させ、売り手側の立場になって考えてみることで、生産活動をとらえさせたい。次の段階として、そこから企業や現代産業の仕組み、金融の働きなど生産に関わる分野へと学習を広げていく。

また、個人・企業・政府のつながりを経済活動全般を通してとらえさせるとともに、企業の役割と社会的責任について考える展開を図っていく。

(2) 生徒観

明るく能動的な学級であり、授業をまじめに取り組もうという雰囲気全体が見られる。小テストの学級平均は高得点が続き、社会科に関心を持つ生徒が多い。理解力に優れている生徒が多いが、その反面、分かっているも発言を控えている生徒も見られる。また、素早い反応をすることを意識し、じっくりと吟味してから発言する配慮に欠けることもある。

既習事項として、地理的分野で「施設園芸農業」「近郊農業」など、歴史的分野で「楽市楽座」「米騒動」など経済に関わる分野を学んできた。語句の知識や理解はできているが、既習事項と経済に関わる経験をつなげることを苦手としている。また、根拠までは明らかに理解しておらず、意義を説明することも苦手としている。既習事実が公民的分野にも関連することを発見する展開が必要と思われる。

これまで、小グループ活動において「自分の意見を言う」「他者の意見を聞く」という過程を経て、多様な意見を吟味しまとめる作業をしてきた。個人からグループ、一斉へと段階を経て移行することによって、さらに学級の学ぶための力は高まると考えている。

(3) 指導観

「個に応じた手だて」について

- ・ 導入時、本時に展開する資料の提示
- ・ 学習展開に即したプリントの活用
- ・ 討論や作業など目的を明確にしたグループ活動
- ・ 小テスト・自己評価の分析

「評価の生かし方」について

評価については、観察法、学習シート・ノート提出、自己評価カード、小テストを適宜行いながら進めていく。また評価規準を明瞭簡潔にし、今後の指導の改善と工夫にいかしたい。

観察では、授業の進度に合わせて生徒の理解状況を把握し、個別指導が必要と思われる生徒への助言・援助へとつなげていく。

学習シート・ノートや自己評価カードをチェックすることで生徒のつまずきや苦手をとらえ、解決のための方向性を示す。

小テストによる評価で、基礎・基本の徹底を図る。

3 単元の目標

- ・ 個人や企業の経済活動に対する関心を持ち、それを意欲的に追究し、経済活動について考えようとしている。(関心・意欲・態度)
- ・ 社会における企業の役割と社会的責任について、多面的・多角的に考察し、個人や企業の経済活動のあり方を、さまざまな立場から公正に判断することができる。(思考・判断)
- ・ 個人と企業に関するさまざまな資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明することができる。(技能・表現)
- ・ 経済活動の意義、市場経済の基本的な考え方、生産の仕組みのあらまし、金融の働きについて理解し、その知識を身につける。(知識・理解)

4 単元の指導計画(全10時間)

第1時 暮らしをみつめて

第2時 消費と暮らし

第3時 消費者の自立

第4時 ものの価格と決まり方(本時)

第5時 市場は万能ではない

第6時 企業はさまざま

第7時 会社のしくみと役割

第8時 資金の貸し借り

第9時 変わる産業

第10時 資源をむだなく

5 題材の評価規準

単元・題材名	暮らしを支える経済 4 ものの価格の決まり方
題材の目標	需要と供給の意味を理解し、市場経済のもとでは需要と供給の関係が変化することによって、価格が変化することをとらえる。
主な学習活動	売り手の立場になって市場の需要を調査し、需要が供給を上回った場合、下回った場合、同等の場合に価格をどのように設定するかを小グループで話し合うこと によって、市場価格の変動の仕方を理解する。
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・小グループ活動に意欲的に参加する。(関心・意欲・態度) ・需要と供給の関係から価格の変動を理由づけできる。(思考・判断) ・需要と供給を理解し、価格の変化を説明できる。(知識・理解)
評価の方法	観察・自己評価

6 本時の指導

(1) 目標

需要と供給の意味を理解し、市場経済のもとでは需要と供給の関係が変化することによって、価格が変化することをとらえる。

(2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手立て
社会的事象への関心・意欲・態度	小グループ活動で自分の考えを述べるとともに、他者の意見も検討しまとめようとしている。	小グループ活動で自分の考えを述べ、価格の変化の理由を考えようとしている。	メンバーの意見を聞き、自分の考えをまとめさせる。
社会的事象についての知識・理解	需要と供給の関係で価格がどのように変化するか説明でき、さらに他の商品で具体例をあげることができる。	需要と供給の関係で価格がどのように変化するか説明できる。	机間巡視し、諸資料からまとめるように個別指導する。

(3) 展開

：評価 ；手立て

	指導内容	生徒の学習活動	留意事項と評価・手立て
導入 5分	1. 本時の導入	・ 価格が変化する商品と変化しない商品とに分ける。	・ 黒板に商品を貼り付ける。 ・ 商品別に価格変化のグラフを提示する。
	2. 学習課題の確認	価格が変化する理由を明らかにしよう	
展 開 40 分	3. 供給量と価格の関係を考えさせる。	・ きゅうりの月別入荷量と価格の変化を読み取る。 ・ さんまの月別水揚量から価格の変化を予測する。	・ 供給量が多いと価格が下がることをつかませる。 ・ 価格の変化を予想しながら表の空欄に書き込ませる。
	4. 需要量と価格の関係を考えさせる。	・ カーネーションの月別卸売数量と卸売価格の変化を読み取る。 ・ 小グループになる。 ・ 5月にカーネーションの卸売価格が上がった理由を考え発表する。	・ 5月に供給量が増えたのに卸売価格が上がったことに気づかせる。 関（観察） ・ 需要量が多いと価格が上がることをつかませる。
	5. 需要量と供給量の関係から価格が変化することを考えさせる。	・ 需要/供給曲線のグラフから、価格の変化を読み取る。	・ 一斉指導で需要/供給曲線のグラフの読み取りをする。
	6. 需要量 > 供給量 需要量 < 供給量 で価格がどのように変化するか考えさせる。	・ 学習プリントで確認する。	<p>知 価格の変化をまとめることができる。</p> <p>Cの生徒への手立て ↓ グラフ等を使って価格の変化を確認させる。</p> <p>Bの生徒への手立て ↓ 身近な商品で価格がよく変わるものを考えさせる。</p> <p>Aの生徒への指導 ワークの作業で再確認させる</p>
7. 均衡価格についてまとめさせる。	・ 価格の変動を繰り返すことで、価格が落ち着くことを考える。	・ 価格変動の波に均衡点があることをつかませる。	
終末 5分	8. 反省・感想	・ 自己評価をし、反省・感想を文章で記入する。	【関・思】(自己評価シート)
	9. 次時学習の確認	・ 実際の商品価格の決定を考える。	